

起きてからでは遅い火災に備え 家庭や地域の防火意識を育てる つよーいサポーター



女性消防協力隊への入隊は随時で、消防本部予防課で受け付けをしています。

●問い合わせ消防本部予防課へ ☎953-7113

今回私は、防災訓練で、油火災の初期消火と、三角巾を使つての応急処置法を体験しました。以前経験はあったのですが、忘れてしまつていて、消防職員のかたの説明に合わせて、参加者の中で細かいアドバイスをしてくださる女性消防協力隊員は、とても心強く感じました。

会場で隊員の飯島文江さんにお話を伺うと、「女性消防協力隊員になつて思うことは、常に落ち着いて行

動することが、一番大切ということなんです。ふだんからの心掛けとして、夕食時に電話をかけるような際は、だれに対しても最初に『コンロは大丈夫?』と声をかけています。多くの人に女性消防協力隊に入隊してもらい、大切な経験をしていただきたいです。」と話してくれました。

今回訓練に参加し、1年に1回でもこういった経験をしておくことは、とても必要だと強く感じました。これからは機会があったら、ご近所やお友達にも声をかけて参加しようと思つています。また、隊員の皆さんの活躍がたくさんの人に知られて、しっかりと地域に根ざしたのものになるとよいと思いました。近隣の市では、連続放火なども起きています。家で、家の周りに燃えやすいものを置かない、不審な人を見かけたら110番するなど、地域のつながりはますます重要になります。そして、それとともに女性消防協力隊の存在は大きいものになっていくと思えました。

REPORTER'S EYE



【リポーター】

福岡光代さん(狭山台在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

皆さんはふだん、火災予防のために、何か心掛けていることがありますか。火事や災害はつい自分には無縁のことのように思つてしまいがちですが、いつ起こるか分からないものです。ですから、まず火を出さないようにすることが一番の予防です。

しかし、万一の時は、やはり日ごろからの心掛けや訓練などでの経験が物を言います。この訓練を強力にサポートする組織が、狭山市女性消防協力隊。今回は、狭山台で行われた防災訓練に参加しながら、消防本部予防課の新課長に女性消防協力隊の活躍を伺いました。

域の中でボランティアの核となつて動ける組織作りを目指して発足しました。

発足時の隊員数は180名。現在は、入間川、入間、堀兼、奥富、柏原、水富の各地区に185名、新狭山が3名の総勢188名で活動しています。私が住んでいる狭山台は残念ながら0ということでした。主婦のかたが多いそうですが、お勤めのかたや学生さんもいて、18歳から72歳まで、平均年齢54歳という構成だそうです。女性消防協力隊に入隊すると、まず、普通救命講習を受講し、応急手当の知識と技術を習得します。また、三角巾を使った応急処置の方法、家庭での油火災への対応、消火器の取り扱い方法などを習います。そして、これらの知識を活用して、おそろいのオレンジ色の帽子とジャンパー、ポロシャツで、防災訓練に参加したり、SAIの街福祉バザールなどのイベント会場で火災予防などのPRをします。



参加者の中へ入って丁寧な指導